

# Kansai Economic Insight Monthly

2020/6/25

Vol.86 May/June

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR研究統括兼数量分析センター長)、木下祐輔(APIR調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋微(APIR研究員)、野村亮輔(研究推進部員)、吉田茂一(研究推進部員)、車競飛(APIRインターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 要旨                | 1  |
| 関西経済のトレンドとCI, CLI | 2  |
| 景気の現況             | 3  |
| 関空モニター            | 11 |
| 中国景気モニター          | 12 |
| 主要月次統計            | 16 |
| Release Calendar  | 17 |

## 要 旨

### - 景気は足下悪化・先行き大幅な悪化を見込む -

- ✓ 4月の生産は3カ月連続の前月比マイナス。2009年8月以来の低水準となった。近畿経済産業局は基調判断を「生産は急速に低下している」と前月から下方修正した。
- ✓ 5月は輸出入ともに前年比大幅減少した。特に輸入の減少が大きく、前月に引き続き織物用糸及び繊維製品(主に中国から)は増加したものの、原油及び粗油の大幅減が影響した。結果、貿易収支は4カ月連続の黒字だが、黒字幅は縮小した。
- ✓ 5月の景気ウォッチャー現状判断DIは過去最低値だった前月から4カ月ぶりの改善。緊急事態宣言が解除されたことで、スーパーや家電量販店などの一部の業種では幾分改善がみられる。
- ✓ 3月の関西2府4県の現金給与総額は名目で8カ月連続、実質では13カ月連続で前年比減少。所得環境は悪化が続く。
- ✓ 4月の大型小売店販売額は7カ月連続の前年比減少。マイナス幅は前月から拡大した。巣ごもり需要の増加でスーパーの売上は好調だが、百貨店はインバウンド需要の蒸発に加え、国内客の外出自粛と各社の営業自粛で過去最大のマイナス幅となった。
- ✓ 4月の新設住宅着工戸数は前月比-20.6%大幅減少し、3カ月ぶりのマイナス。全ての住居形態で大幅に減少している。
- ✓ 4月の有効求人倍率は4カ月連続で前月比悪化し下落幅は全国を上回った。対面型の産業を中心に新規求人数の減少が大きい。完全失業率も5カ月連続の上昇。雇用環境は悪化が続いている。
- ✓ 4月の建設工事出来高は16カ月連続の前年比プラスだが、小幅な伸びが続いている。一方、5月の公共工事請負金額は3カ月ぶりの大幅減少となった。
- ✓ 5月の関空への外国人入国者数は181人と前月の過去最低値を更新した(前年比-100.0%)。外国人の上陸拒否の措置が続いており、訪日外客の急速な回復はしばらく期待しづらい。
- ✓ 中国5月の経済指標の多くは改善したが、投資と消費は前年の水準を下回っている。延期されていた全人代では、成長率目標の公表が見送られた。また、6月上旬に北京を襲った新型コロナウイルスは第2波につながる可能性もあり、注視すべきである。

## 【関西経済のトレンド】

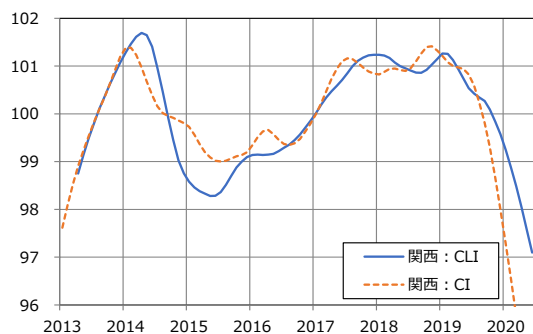
|        | 2019年 |    |    |    |    |     |     |     | 2020年 |    |    |    |    |
|--------|-------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|
|        | 5月    | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 生産     | ↑     | ↓  | ↑  | ↓  | ↑  | ↓   | ↓   | ↑   | ↑     | ↓  | ↓  | ↓  |    |
| 貿易     | ↓     | ↑  | ↑  | ↓  | ↑  | ↑   | ↑   | ↑   | ↑     | ↑  | ↑  | ↑  | ↑  |
| センチメント | ↓     | ↑  | ↓  | ↑  | ↑  | ↓   | ↑   | ↑   | ↑     | ↓  | ↓  | ↓  | ↑  |
| 消費     | ↑     | ↑  | ↓  | ↑  | ↑  | ↓   | ↓   | ↓   | ↓     | ↓  | ↓  | ↓  |    |
| 住宅     | ↓     | ↑  | ↑  | ↓  | ↓  | ↑   | ↓   | ↑   | ↓     | ↑  | ↑  | ↓  |    |
| 雇用     | ↓     | ↓  | ↓  | ↓  | ↑  | ↓   | ↓   | ↑   | ↓     | ↓  | ↓  | ↓  |    |
| 公共工事   | ↑     | ↑  | ↑  | ↑  | ↑  | ↑   | ↑   | ↑   | ↑     | ↓  | ↑  | ↑  | ↓  |
| 中国     | ↓     | ↑  | ↓  | ↓  | ↑  | ↓   | ↑   | ↑   | ↓     | ↓  | ↓  | ↑  | ↑  |

### （＊トレンドの判断基準）

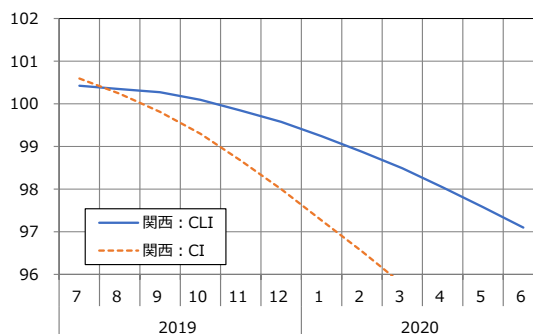
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域製造工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

## 【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作CLI)の推移】

CI一致指数・試作CLIの推移(2013年1月～2020年6月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2019年7月～2020年6月)



(注)指数は2013年1月～2020年3月までのデータで計算されており、新型コロナウイルスの影響を反映している。

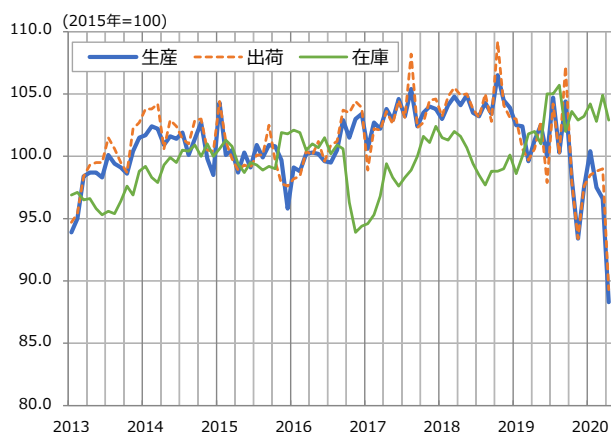
## 【鉱工業生産動向】

### (1) 関西の生産動向

関西 4 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 88.3 で前月比-8.6%と 3 カ月連続で低下した。2009 年 8 月(84.2)以来の低水準。結果、4 月実績(生産)は 1-3 月平均比-10.1%下落し(1-3 月期は前期比+1.9%)、4-6 月期の最初の月としては、極めて弱い結果となった。出荷は 89.3 で前月比-9.8%と 5 カ月ぶりに低下し、在庫は 102.9 で同-1.9%と 2 カ月ぶりに低下した。足下の生産が弱いことから、近畿経済産業局は基調判断を「生産は急速に低下している」と前月から更に下方修正した。

4 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは、輸送機械工業(前月比-37.9%、2 カ月ぶり)、生産用機械工業(同-13.5%、2 カ月連続)、汎用・業務用機械工業(同-13.0%、2 カ月ぶり)等であった。一方、増産となったのは、食料品・たばこ工業(同+3.9%、2 カ月連続)、プラスチック製品工業(同+2.2%、2 カ月連続)、金属製品工業(同+0.7%、2 カ月ぶり)等であった。なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、4 月(確報値)は 106.6 で前月比-5.4%と 2 カ月ぶりのマイナスとなった。

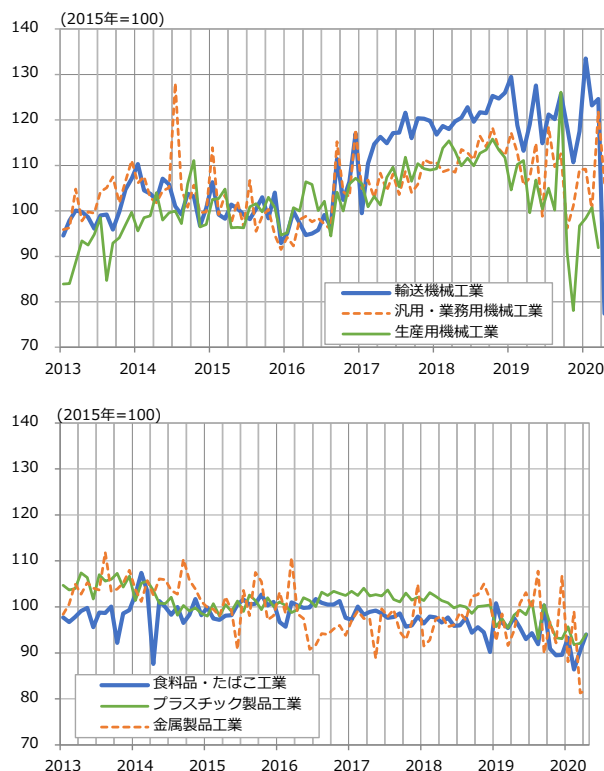
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~20 年 4 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~20 年 4 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

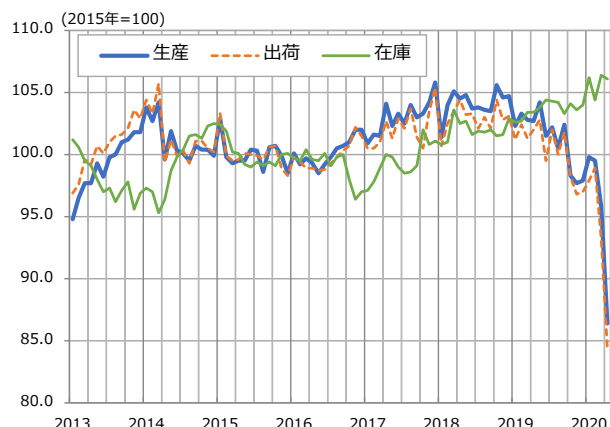
### (2) 全国の生産動向

全国 4 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 86.4 で前月比-9.8%と 3 カ月連続で低下し、2011 年 4 月(89.2)以来の低水準となった。結果、4 月実績(生産)は 1-3 月平均比-12.2%下落した(1-3 月期は前期比+0.4%)。出荷は 84.3 で同-9.5%と 2 カ月連続、在庫は 106.1 で同-0.3%と 2 カ月ぶりにいずれも低下した。

4 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは自動車工業(前月比-36.6%)、鉄鋼・非鉄金属工業(同-15.0%)、輸送機械工業(除、自動車工業)(同-26.0%)等であった。一方、増産となったのは、生産用機械工業(同+4.1%)、化学工業(除、無機・有機化学工業)(同+3.2%)であった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、5 月は前月比-4.1%と減産が、6 月は同+3.9%と増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月～20年4月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

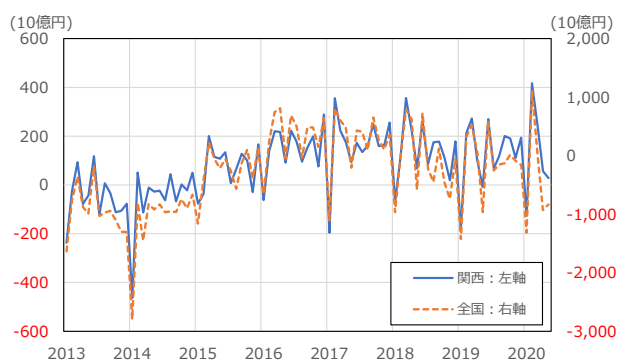
## 【貿易動向】

### (1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西5月の貿易収支は+281億円と4カ月連続の黒字だが、前月から黒字幅は縮小している。輸出入ともに大幅減少となった。輸出入の合計である貿易総額は前年同月比-18.3%と8カ月連続で減少し、昨年9月を除けば、2018年12月から連続で縮小している。

全国5月の貿易収支は-8,334億円と2カ月連続の赤字となった。輸出入ともに大幅減少となった。また、貿易総額は前年同月比-27.2%と13カ月連続で縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2013年1月～20年5月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (2) 輸出

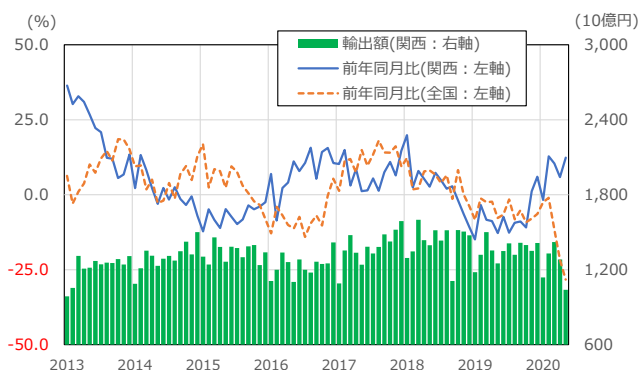
関西5月の輸出額(速報値)は1兆392億円で前年同月比-16.9%と3カ月連続の減少。財別にみれば、主に鉱物性燃

料、建設用・鉱山用機械等が減少した。

日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、5月(速報値)は98.0で前月比-8.1%となり、2カ月連続のマイナスとなった。

全国5月の輸出額(速報値)は4兆1,848億円で、前年同月比-28.3%と18カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、自動車の部分品、鉱物性燃料等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2013年1月～20年5月)



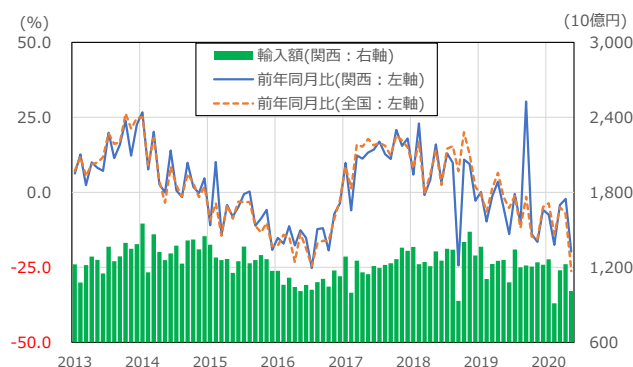
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (3) 輸入

関西5月の輸入額(速報値)は1兆111億円で、前年同月比-19.7%大幅減少し、8カ月連続のマイナス。財別にみれば、主に原油及び粗油、衣類及び同附属品が減少した。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、5月(速報値)は101.9で前月比-8.7%となり、3カ月ぶりのマイナスとなった。

関西・全国の輸入の推移(2013年1月～20年5月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国5月の輸入額(速報値)は5兆182億円で、前年同月比-26.2%と13カ月連続の減少であった。財別にみれば、原油、航空機類、石炭等が減少した。

#### (4) 関西の地域別貿易

関西5月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,213億円と4カ月連続の黒字となった。輸出額(7,421億円)は前年同月比-6.9%と3カ月連続のマイナスとなった。財別にみれば、鉄鋼、自動車の部分品等が減少した。また、輸入額(6,208億円)は同-9.1%と2カ月ぶりのマイナスとなった。財別にみると、衣類及び同附属品、通信機等が減少した。

対中貿易収支は-733億円と3カ月連続の赤字となり、赤字幅は前月(-1,443億円)から縮小した。輸出額(3,147億円)は前年同月比-0.1%と2カ月ぶりのマイナスとなった。財別にみると、主に鉱物性燃料、繊維機械等が減少した。輸入額(3,880億円)は同+2.1%で2カ月連続のプラス。財別にみると、織物用糸及び繊維製品、事務用機器が大幅増加した。前月に引き続きマスクが輸入増に大きく寄与している。

対米貿易収支は+202億円の黒字となった。輸出額(1,148億円)は前年同月比-41.2%と3カ月連続のマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、遊戯用具等が減少した。輸入額(947億円)は同-22.1%と3カ月連続のマイナス。財別にみれば、医薬品、原油及び原油等が減少した。

対EU(英国を除く27カ国ベース)貿易収支は-138億円と4カ月ぶりの赤字。輸出額(966億円)は前年同月比-26.6%と8カ月連続のマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、遊戯用具等が減少した。輸入額(1,104億円)は同-26.0%と3カ月連続のマイナス。財別にみれば、医薬品、有機化合物等が減少した。

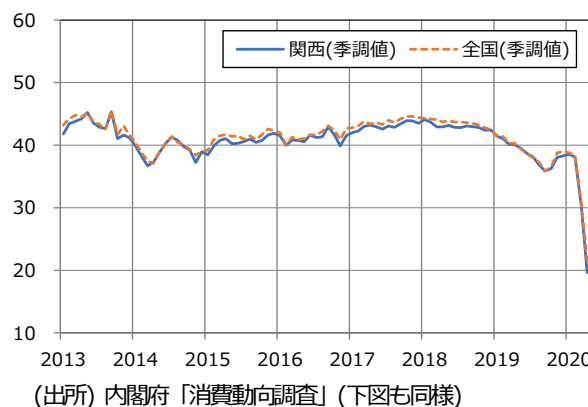
### 【消費者センチメント】

#### (1) 消費者態度指数の動向

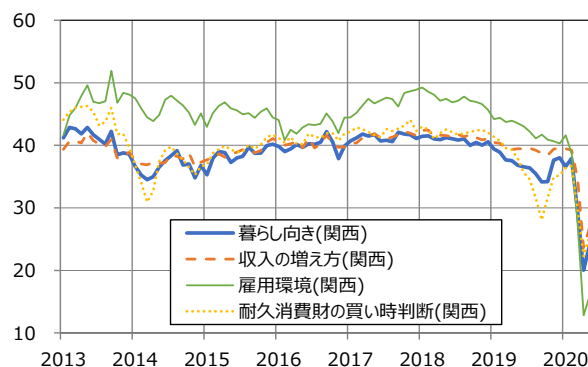
関西5月の消費者態度指数(季節調整値:APIR推計)は23.1で前月比+3.5ポイントと4カ月ぶりに上昇したものの、水準

は依然低い。なお、調査票の回収期間は5月8日から20日までであり、京都府、大阪府、兵庫県の緊急事態宣言はまだ解除されていなかったため、解除後の影響は来月のデータにあらわれるだろう。指数構成項目4指標すべてが前月より上昇した。暮らし向き指数(24.0)は前月比+4.0ポイント(3カ月ぶり)、収入の増え方指数(26.8)は同+3.2ポイント(5カ月ぶり)、耐久消費財の買い時判断指数(25.5)は同+3.2ポイント(3カ月ぶり)、雇用環境指数(15.9)は同+3.1ポイント(4カ月ぶり)と改善した。

消費者態度指数の推移(2013年1月～2020年5月)



消費者態度指数構成項目の推移(2013年1月～2020年5月)



全国(季節調整値)は24.0と前月比+2.4ポイントと5カ月ぶりの上昇となったが、水準は前月に次ぐ低さだった。5月14日の緊急事態宣言解除(一部地域除く)を受けて、経済活動再開による期待感が高まっているようである。同指数構成項目4指標すべてが前月より上昇した。暮らし向き指数(25.0)は同+3.1ポイント(5カ月ぶり)、耐久消費財の買い時判断指数(26.3)は同+3.0ポイント(3カ月ぶり)、雇用環境指数(16.8)



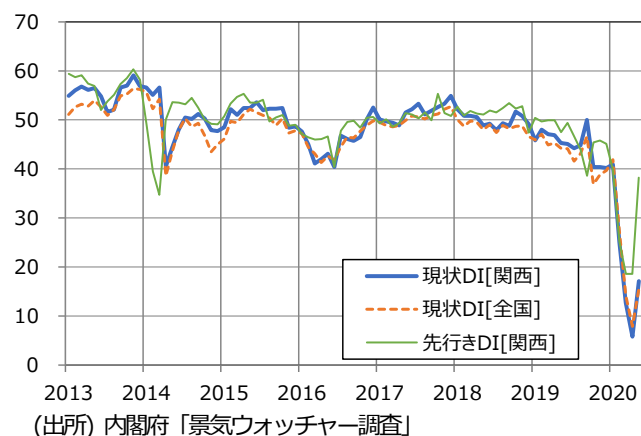
は同+1.8ポイント(4カ月ぶり)、収入の増え方指数(27.8)は同+1.5ポイント(5カ月ぶり)と、いずれも改善した。結果、内閣府は基調判断を前月の「急速に悪化している」から「依然として極めて厳しいものの、下げ止まりの動きがみられる」と6カ月ぶりに上方修正した。

## (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西5月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は17.1と前月比+11.3ポイントと4カ月ぶりに上昇し、前月の過去最低値(5.8)から改善したものの、依然低水準に留まっている。全国と同指数は15.5と前月比+7.6ポイントと4カ月ぶりに上昇した。緊急事態宣言解除(一部地域除く)により、スーパーや家電量販店などの一部の業種では幾分改善がみられるようである。

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で38.2と前月比+19.6ポイントと6カ月ぶりに上昇。上げ幅は2014年4月以来(+15.3ポイント)の大きさである。全国と同指数は36.5と同+19.9ポイントと上昇し6カ月ぶりに改善した。先行きは新型コロナウイルスの感染再拡大が不安視されているが、緊急事態宣言が解除されたことで、百貨店等の小売関連業種や外食を中心としたサービス業において改善が期待されているようである。

景気ウォッチャー調査の推移(2013年1月～2020年5月)



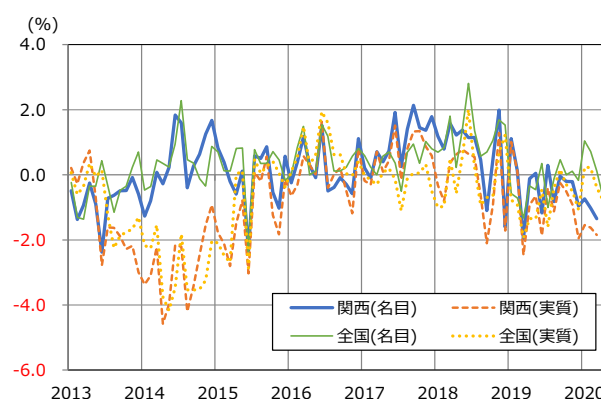
## 【所得・個人消費】

### (1) 現金給与総額

関西2府4県の3月の現金給与総額(APIR推計)は27万1,088円で前年同月比-1.3%となり、8カ月連続の減少。府県別では、滋賀県は同-6.2%(3カ月連続)、京都府は同-3.9%(4カ月連続)、和歌山県は同-3.3%(2カ月連続)、兵庫県は同-2.5%(3カ月連続)、大阪府は同-0.1%(13カ月連続)と、それぞれ減少した。一方、奈良県は同+8.0%(8カ月連続)と増加した。京都・大阪・兵庫の加重平均をとった3月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同-1.3%と、8カ月連続で減少した。

また、関西2府4県の現金給与総額から物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた3月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-1.8%と13カ月連続で減少し、所得環境の悪化が続いている。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2013年1月～2020年4月)



(注) 関西・関西コア(京都・大阪・兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成。

全国4月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比-0.7%と4カ月ぶりに減少した。内訳を見ると、所定内給与は同+0.1%と5カ月連続の増加だが、伸びは小幅にとどまった。所定外給与は同-12.8%と8カ月連続で減少し、比較可能な2013年1月以来過去最大の下げ幅となった。特別に支払われた給与は同+8.5%と4カ月連続の増加。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた4月の実質現金

給与総額(実質賃金)は同-0.8%と2カ月連続で減少した。

## (2) 大型小売店販売額

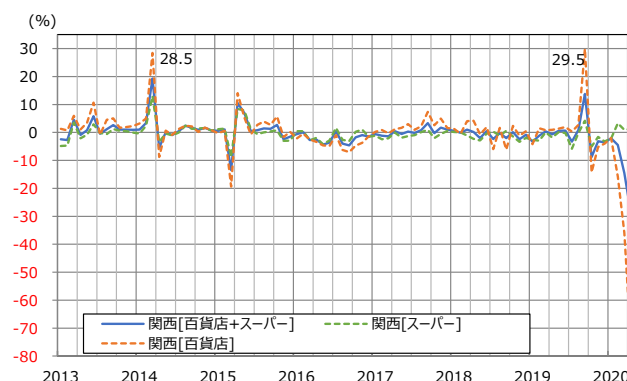
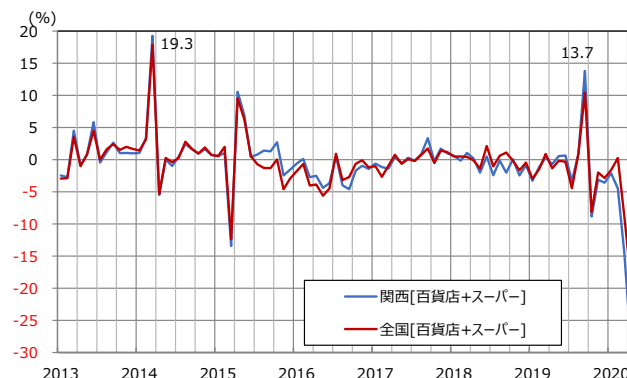
関西4月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は2,229億円で、前年同月比-28.7%と7カ月連続の減少となった。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令(4月7日)を受けて、営業自粛と外出自粛が更に進み、前月(同-14.5%)よりマイナス幅は拡大した。

うち、百貨店は前年同月比-74.6%と、7カ月連続の減少。マイナス幅は前月(同-35.9%)の倍となり、過去最大を更新した。国内外の入国や渡航制限によってインバウンド需要がほぼ蒸発したことに加え、国内客の外出自粛及び各社の営業自粛により、売上が大幅に減少した。なお、5月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-97.2%と4カ月連続で大幅下落した。また、3カ月連続で90%超のマイナス幅が続いている。件数も同-99.2%と4カ月連続のマイナス。インバウンド需要の回復が見込めないため、百貨店販売額の低水準は続く。

一方、スーパーは前年同月比+1.3%と3カ月連続でプラスを維持した。飲食料品(同+10.5%)の増加は前月(同+6.2%)を上回り、全体を押し上げた。緊急事態宣言の発令を受け、外出自粛の広がりに伴う巣ごもり需要の増加により飲食料品の売上が好調に推移した。

全国4月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆3,445億円で、前年同月比-18.6%と2カ月連続の減少となった。うち、百貨店は同-71.5%と大幅な減少(7カ月連続)となったが、スーパーは同+3.6%と3カ月連続の増加。なお、小売業販売額指数(季節調整済)の前月比の3カ月後方移動平均は-4.5%と2カ月連続の低下。前月(同-0.9%)より大きく低下し、経済産業省は基調判断を「急速に低下している」と前月から下方修正した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2013年1月~20年4月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

## 【住宅投資】

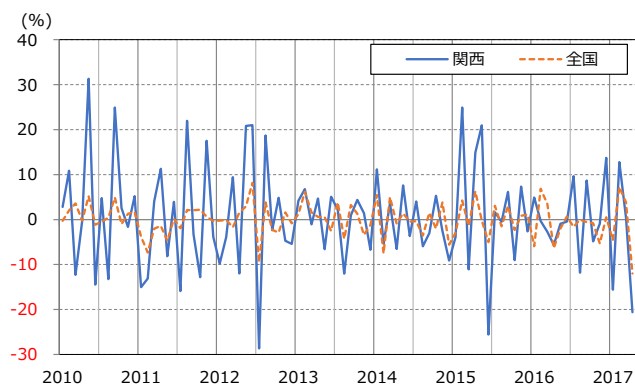
### (1) 新設住宅着工の動向

関西4月の新設住宅着工戸数(原数値)は10,030戸となり、前年同月比-15.7%と2カ月ぶりの減少となった。また、季節調整値(APIR推計)は9,411戸で前月比-20.6%と3カ月ぶりの減少。利用関係別に見ると、持家は2,566戸で同-18.1%と3カ月ぶり、貸家は3,442戸で同-23.5%と2カ月ぶり、分譲は3,458戸で同-13.7%と2カ月連続、それぞれ減少した。分譲のうち、マンションは1,772戸で同-14.6%と2カ月連続、一戸建は1,607戸で同-17.0%と3カ月ぶりの減少であった。全ての住居形態で大幅な減少が見られた。

全国4月の新設住宅着工戸数(原数値)は69,162戸となり、前年同月比-12.9%と10カ月連続の減少となった。また、季節調整値では66,390戸となり、前月比-12.0%と3カ月ぶりの減少。利用関係別に見ると、持家は20,754戸(同-16.1%)と3カ月ぶり、貸家は24,201戸(同-14.3%)と4カ月ぶり、

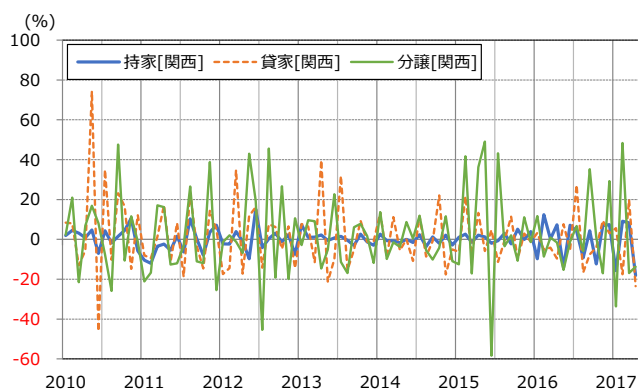
分譲は20,821戸(同-4.5%)と3カ月ぶりに、いずれも減少した。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値、前月比: 13年1月~20年4月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」(下図も同様)

利用関係別の推移(季節調整値、前月比: 2013年1月~2020年4月)



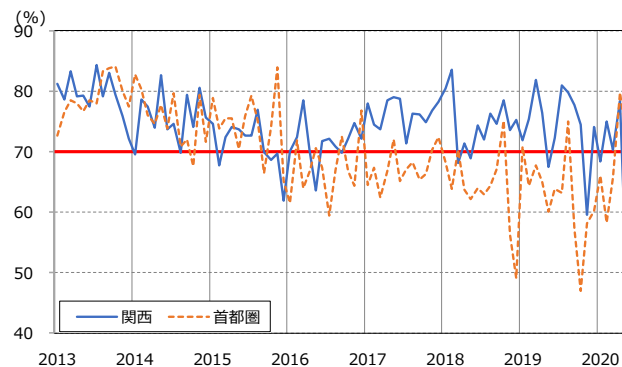
## (2) マンション市場動向

関西5月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は49.8%(季節調整値: APIR 推計)と、前月比-28.6%ポイントと2カ月ぶりに減少した。前月から大幅に低下し、好不況の境目である70%を大幅に下回った。一部地域では契約率は高水準であったが、多くの地域では低水準となった。

マンションの新規発売戸数は214戸(前年同月比-84.6%)で、単月最低値を更新した。バブル崩壊後の1991年8月(176戸)以来の低水準であった。新型コロナウイルス感染拡大によるモデルルームの営業休止や来場制限により、販売活動が困難となった。

同月の首都圏のマンション契約率は72.3%(季節調整値: APIR 推計)で、前月比-7.4%ポイントと3カ月ぶりに低下し、好不況の境目である70%を2カ月連続で上回った。新規発売戸数は前月の686戸を更に下回る393戸(前年同月比-82.2%)となり、1973年の統計開始以降最低となった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2013年1月~2020年5月)



(出所) 株式会社不動産経済研究所「マンション市場動向」

## 【雇用動向】

### (1) 求人倍率の動向

関西4月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.33倍で前月比-0.09ポイントと4カ月連続で悪化。2016年11月(1.32倍)以来の水準まで低下し、下落幅は全国を上回った。有効求人数は同-9.3%で4カ月連続の減少、有効求職者数は同-2.9%で3カ月連続の減少であった。緊急事態宣言による外出自粛を受け、求人数・求職者数ともに減少した。

府県別に見ると、大阪府は1.48倍で前月比-0.12ポイント、兵庫県は1.13倍で同-0.08ポイント、京都府は1.36倍で同-0.08ポイント、奈良県は1.32倍で同-0.08ポイント、滋賀県は1.08倍で同-0.06ポイント、和歌山県は1.14倍で同-0.05ポイントと、いずれも4カ月連続で低下した。

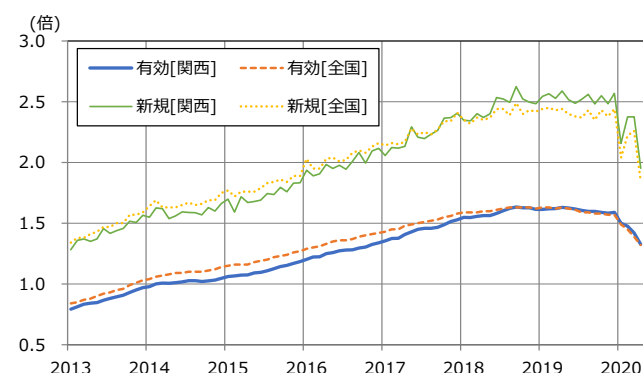
また、関西4月の新規求人倍率は1.95倍で前月比-0.42ポイントと2カ月連続の悪化。前月比で大幅に減少したのは2020年1月(同-0.41ポイント)以来だが、同月は求人票の記載項目が増えた特殊要因によるものである。4月は緊急事態宣言を受けた経済活動の落ち込みが雇用にも現れたとみられる。なお、2倍を割り込むのは2016年7月(1.95倍)以来であっ



た。新規求人数(同-22.6%、2 カ月連続)、新規求職者数(同-5.8%、3 カ月連続)はともに減少したが、新規求人数の減少幅が大きく上回った。

全国 4 月の有効求人倍率(季節調整値)は 1.32 倍で前月比-0.07 ポイント低下し 4 カ月連続の悪化。2016 年 3 月(1.31 倍)以来の低水準であった。一方、新規求人倍率は 1.85 倍で同-0.41 ポイント低下し、3 カ月ぶりに悪化した。2 倍を割り込むのは 2016 年 3 月(1.95 倍)以来であった。

求人倍率(受理地別)の推移(2013 年 1 月~20 年 4 月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西 2 府 4 県の有効求人倍率(2020 年 3 月~4 月)

|     | 全国     | 関西     | 滋賀県    | 京都府    | 大阪府    | 兵庫県    | 奈良県    | 和歌山県   |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 3月  | 1.39   | 1.42   | 1.14   | 1.44   | 1.60   | 1.21   | 1.40   | 1.19   |
| 4月  | 1.32   | 1.33   | 1.08   | 1.36   | 1.48   | 1.13   | 1.32   | 1.14   |
| 前月差 | ▲ 0.07 | ▲ 0.09 | ▲ 0.06 | ▲ 0.08 | ▲ 0.12 | ▲ 0.08 | ▲ 0.08 | ▲ 0.05 |

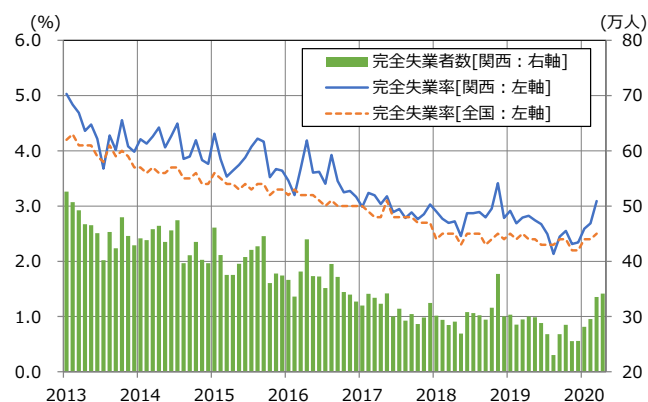
## (2) 完全失業率の推移

関西 4 月の完全失業率(季節調整値 : APIR 推計)は 3.2%と前月比+0.2%ポイント上昇し、5 カ月連続で悪化した。完全失業者数(季節調整値 : APIR 推計)は 34.2 万人で前月差+0.6 万人とこちらも 5 カ月連続で増加。労働力人口(季節調整値 : APIR 推計)は前月差-34.9 万人、就業者数(季節調整値 : APIR 推計)は同-34.0 万人と、いずれも大幅な減少。結果、失業率は小幅な変化にとどまった。

全国 4 月の完全失業率(季節調整値)は 2.6%と前月比+0.1%ポイント上昇し、2 カ月連続の悪化。完全失業者数(季節調整値)は 178 万人で前月差+6 万人と 4 カ月連続で増加した。理由別では、「非自発的な離職」(45 万人)は同横ばい、「自発的な離職(自己都合)」(70 万人)は同-1 万人減

少、「新たに求職」(50 万人)は同+7 万人増加した。

完全失業率の推移(2013 年 1 月~20 年 4 月)



(出所) 総務省「労働力調査」

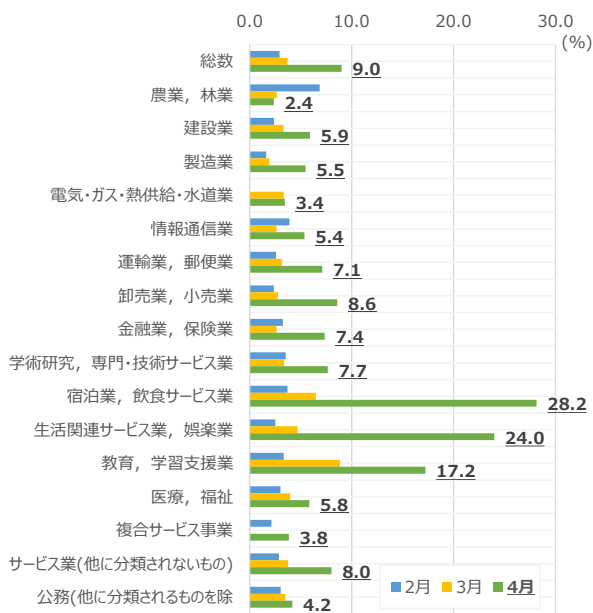
## [足下の雇用状況について]

4 月 7 日に出された緊急事態宣言による外出自粛や経済活動の悪化を受け、4 月の求人倍率は全国・関西ともに大幅に悪化した。その一方で、完全失業率は全国・関西ともに小幅な悪化にとどまった。両者の違いを読み解くためには、失業者の統計に表れない休業者に着目する必要がある。

全国 4 月の休業者数は 597 万人と前年同月差で+420 万人大幅増加した。休業者とは、仕事を持ちながら、調査期間中に少しも仕事をしなかった者のうち、雇用者では給料・賃金の支払いを受けている者、または受けることになっている者を指している。休業者は就業者の内数であり、失業者には含まれないことから、休業者を含めた潜在的な失業率は大きく上昇すると見込まれている。

それでは、具体的にどの業種で休業者が多いのだろうか。次ページの図は、新型コロナウイルスの感染が拡大した 2 月以降における全国の休業者率(休業者数÷就業者総数)を産業別に見たものである。これによると、4 月に休業者率が最も高かったのは「宿泊業、飲食サービス業」で 28.2%と 3 割弱に上っている。続いて「生活関連サービス業、娯楽業」が 24.0%、「教育・学習支援業」が 17.2%と高いことがわかる。いずれも対面型のサービス産業で影響が大きくなっているとみられる。

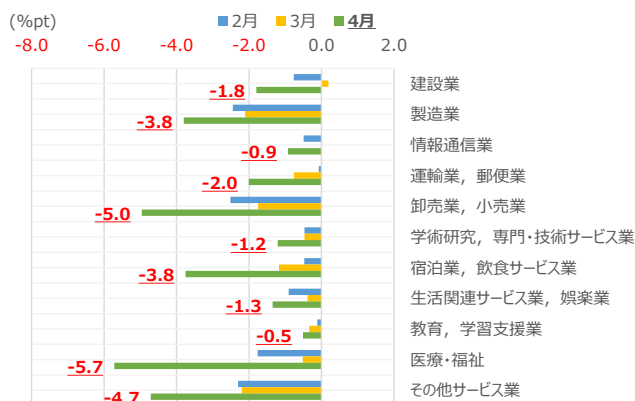
全国における産業別休業率(2020年2月~4月)



(出所)総務省「労働力調査基本集計第Ⅱ-3表」より APIR 作成

それでは、関西ではどうだろうか。全国でみた月次の休業者数は地域単位では得られないため、関西2府4県について新規求人数の産業別寄与度をみたのが以下の図である。これを見ると、マイナス幅が大きいものから順に、医療・福祉業(-5.7%ポイント)、卸・小売業(-5.0%ポイント)、その他サービス業(-4.7%ポイント)、製造業(-3.8%ポイント)、宿泊・飲食業(-3.8%ポイント)となっている。サービス業、特に対面型産業を中心に新規求人数減少が顕著であることがわかる。コロナ関連の解雇や雇止めも増加しているとされ、5月以降も厳しい雇用情勢が続くことが見込まれる。

関西における新規求人数の産業別寄与度(2020年2月~4月)



(出所)各労働局公表資料より APIR 作成

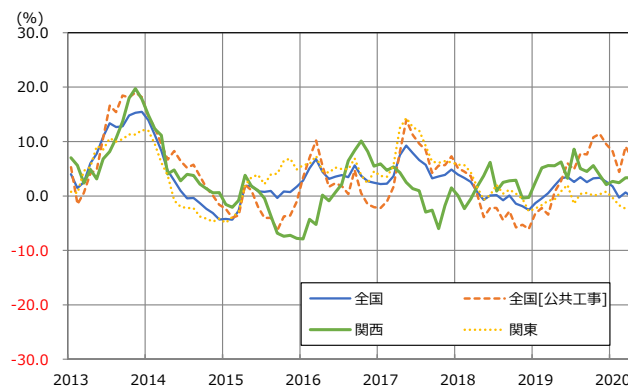
## 【建設工事・公共投資】

### (1) 建設工事

関西4月の建設工事出来高は5,172億円で前年同月比+3.3%と16カ月連続のプラスも小幅な伸びが続いている。関東は1兆3,995億円で同-2.4%と4カ月連続で減少した。

全国4月の建設工事出来高は3兆8,733億円で、前年同月比-0.2%と2カ月ぶりに減少した。うち、公共工事は1兆4,926億円で同+7.0%と13カ月連続の増加となったが、民間工事は2兆3,807億円で同-4.2%と、8カ月連続で減少となった。なお、今月から過去の進捗率が見直され、系列が新推計となったことから、前月までの値とは連続しない。

建設工事出来高の推移(前年同月比: 2013年1月~20年4月)



(注) 2020年4月分より逆戻り訂正された値を反映している

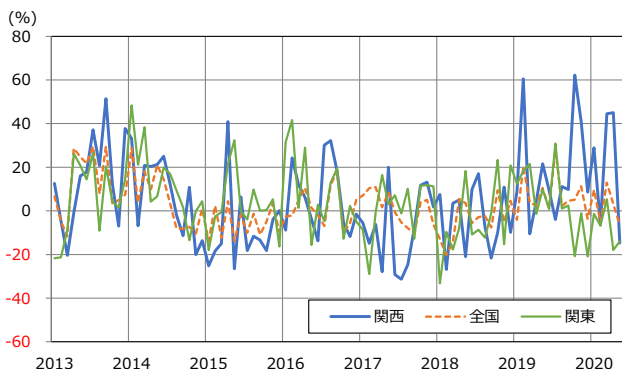
(出所)国土交通省「建設総合統計」

### (2) 公共工事請負金額

関西5月の公共工事請負金額は1,208億円で前年同月比-14.7%と、3カ月ぶりの減少。季節調整値(APIR推計)でみると前月比-40.1%と3カ月ぶりの大幅減少となった。

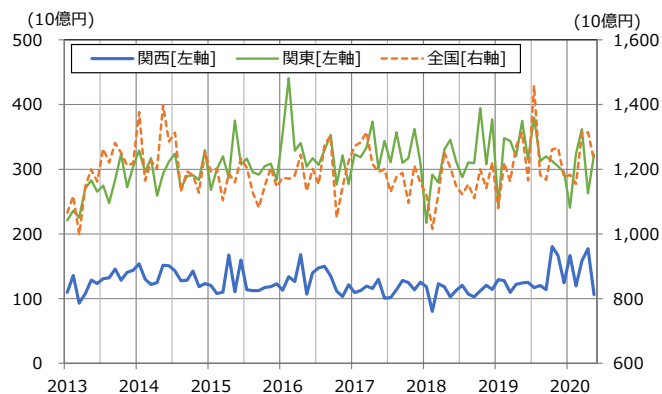
関東は2,901億円で前年同月比-14.0%と2カ月連続の減少。全国は1兆3,291億円で同-6.4%と3カ月ぶりの減少となった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東は前月比+22.7%と2カ月ぶりの増加、全国は同-6.5%と3カ月ぶりの減少となった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2013年1月～2020年5月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2013年1月～2020年5月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

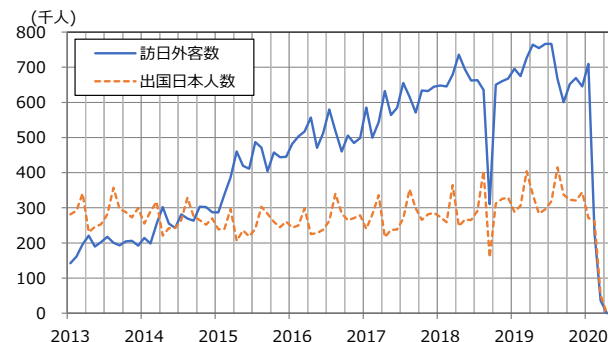
## 【関空モニター】

### (1) 訪日外客数トレンド

5月の関空への外国人入国者数は、181人で前月の過去最低値を更新した。伸び率は前年同月比-100.0%減少し、入国者はほとんどみられない状態となった。新型コロナウイルス感染拡大を受けて、外国人の上陸拒否の措置が続いていることが影響した。なお、法務省は上陸拒否の対象地域を5月16日に拡大した100地域から、27日には111地域へと拡充しており、しばらく訪日外客数の急速な回復は期待しづらい。また、外国人出国者数は2,404人で同-99.7%と4カ月連続の減少。結果、外国人出入国者数は2,585人で同-99.8%と4カ月連続の減少となった。

日本人出国者数は626人で前年同月比-99.8%と5カ月連続で減少した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2013年1月～2020年5月)



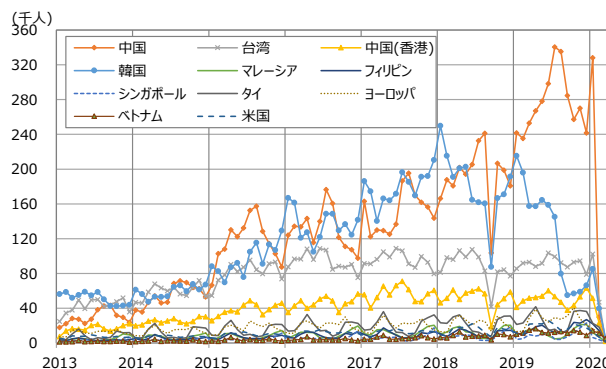
(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

### (2) 地域別訪日外客数

3月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、全体の水準は低いものの、欧州からの入国者が5,853人(前年同月比-79.7%)と最多であった。東アジアからの訪日外客以外が最多となるのは、比較可能な2013年1月以降で初めてである。次いで、韓国が5,003人(同-96.8%)、ベトナムが4,844人(同-67.0%)、フィリピンが3,565人(同-72.8%)であった。伸び率をみると、欧州は2カ月連続、韓国は22カ月連続、ベトナムは2カ月連続、フィリピンは18カ月ぶりにいずれも減少した。

上記以外の各国をみれば、中国(香港除く)が2,911人(前年同月比-98.8%)、米国が2,191人(同-89.9%)、香港が1,780人(同-96.6%)、台湾が1,770人(同-98.1%)、シンガポールが1,096人(同-88.5%)、マレーシアが867人(同-94.5%)、タイが711人(同-97.8%)であった。

地域別訪日外客数(2013年1月～2020年3月まで)



(出所)法務省「出入国管理統計」

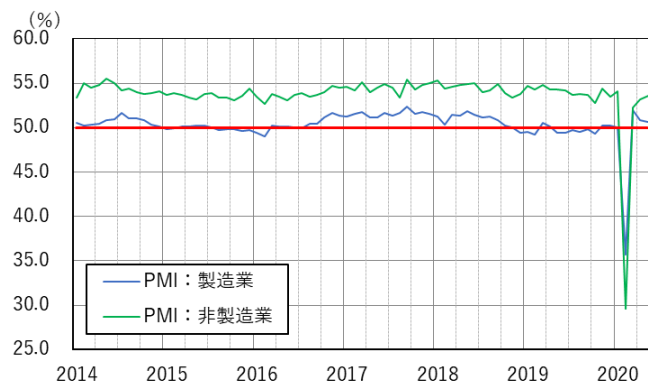
## 【中国景気モニター】

### (1) センチメント

5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.6となり、前月から-0.2%ポイント下落し、2カ月連続の悪化。非製造業PMIは53.6となり、同+0.4%ポイント上昇し、3カ月連続の改善。

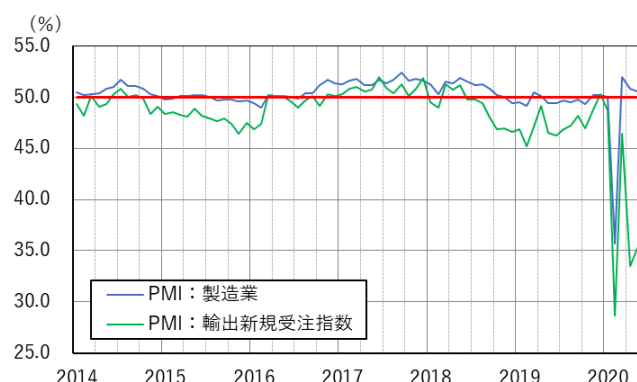
製造業PMIのうち、生産指数は53.2と前月から-0.5%ポイント下落し、2カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は35.3と同+1.8%ポイント上昇したが、5カ月連続で景気分岐点を下回っている。雇用指数は49.4と-0.8%ポイントと2カ月連続で悪化し、3カ月ぶりに景気分岐点を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月～2020年5月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース(下図も同様)

製造業購買担当者景況指数(2014年1月～2020年5月)

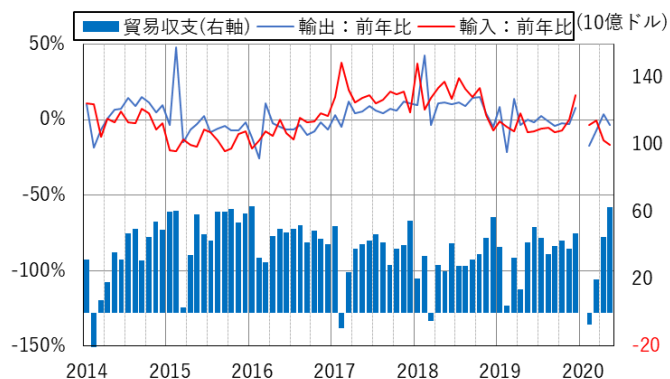


### (2) 貿易動向

5月の貿易収支は629.3億ドルで3カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,068.1億ドルで前年同月比-3.3%と2カ月ぶりの減少。輸入額は1,438.9億ドル

で同-16.4%と5カ月連続の減少。貿易総額(輸出+輸入)は同-9.2%と5カ月連続で縮小している。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月～2020年5月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

### 【地域別貿易状況】

地域別にみると、5月の対日貿易収支は+8.0億ドルとなり、2017年1月以来の黒字となった。対日輸出額は132.6億ドルとなり、前年同月比+11.2%と2カ月連続の増加。対日輸入額は124.7億ドルとなり、同-5.4%と2カ月連続の減少。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+8.6%と2カ月連続の増加。対日輸入額は同-7.6%と2カ月連続の減少であった。

対韓貿易収支は-33.5億ドル(前月:-34.0億ドル)の赤字となった。対韓輸出額は96.3億ドルで前年同月比-4.0%と3カ月ぶりの減少。また、対韓輸入額は129.8億ドルとなり、同-12.1%と5カ月連続の減少であった。

対米貿易収支は278.9億ドル(前月:228.7億ドル)となり、前年同月比+3.7%と2カ月連続の増加。対米輸出額は372.2億ドルで同-1.2%と2カ月ぶりの減少。また、対米輸入額は93.3億ドルとなり、同-13.5%と3カ月連続の減少であった。

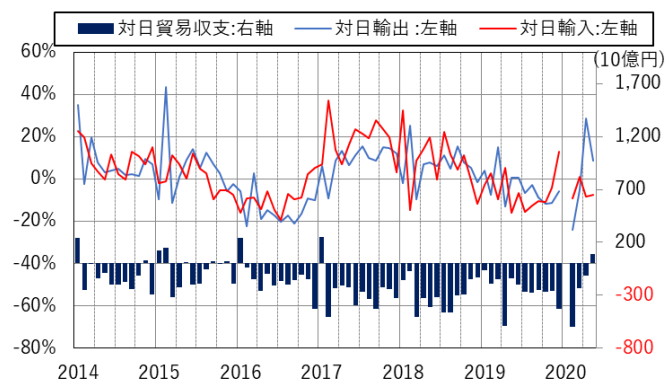
対ASEAN貿易収支は63.3億ドル(前月:66.0億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は278.7億ドルで同-5.7%と3カ月ぶりの減少。また、対ASEAN輸入額は215.4億ドルとなり、同-5.7%と2カ月連続の減少であった。

対EU貿易収支は181.8億ドル(前月:135.4億ドル)の黒字



となった。対 EU 輸出額は 354.6 億ドルで同-0.7%と 5 カ月連続の減少。また、対 EU 輸入額は 172.8 億ドルとなり、同-29.0%と 5 カ月連続で減少した。

日本との貿易(円ベース, 2014 年 1 月~20 年 5 月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

### (3) 工業生産

5 月の工業生産は前月比+1.53%上昇し、伸びは前月から 0.67%ポイント減速した。また、前年同月比は+4.4%と 2 カ月連続で加速した。

産業別に見ると、専用設備製造業(前年同月比+16.4%)、自動車製造業(同+12.2%)、パソコン・通信設備製造業(同+10.8%)などが高い伸びを示す一方、ゴム・プラスチック製品製造業(同+3.5%)、鉄道・輸送機器製造業(同+2.5%)、医薬製造業(同+2.0%)などは比較的低調な伸びにとどまった。また、農業副食品加工業は同-0.5%と 2 カ月ぶりに減産した。

工業生産指数(2014 年 1 月~20 年 5 月)



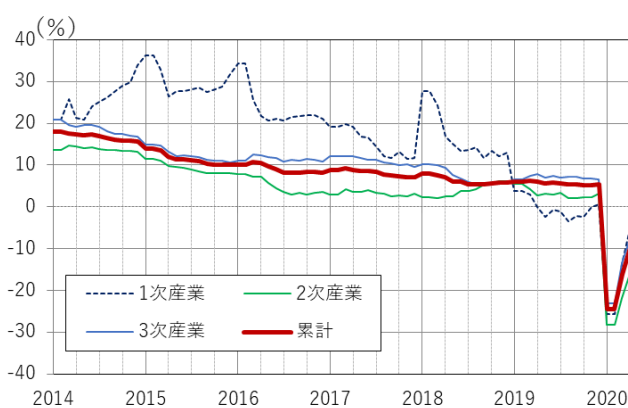
(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

### (4) 固定資産投資

1-5 月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比-6.3%となり、1-4 月期の下落幅(同-10.3%)から 4.0%ポイント縮小したものの、5 カ月連続で下落した。

産業別にみると、第 1 次産業は前年同期比横ばいで、前月から 5.4%ポイントした。第 2 次産業は同-11.8%と下落幅は前月から 4.2%ポイント縮小した。第 3 次産業は同-3.9%で、下落幅は前月から 3.9%ポイント縮小した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014 年 1 月~20 年 5 月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

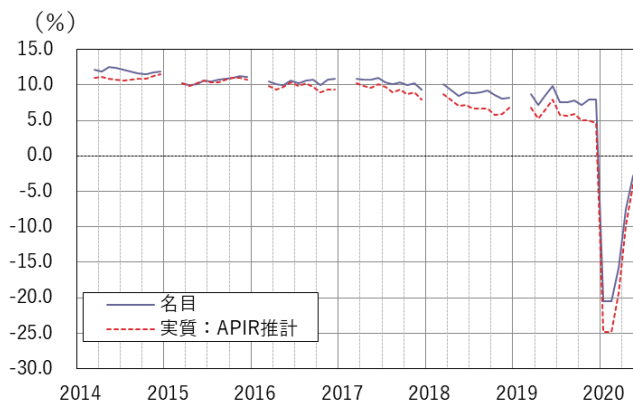
### (5) 消費

5 月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比-2.8%となり、下落幅は前月から 4.7%ポイント縮小したが、5 カ月連続のマイナスであった。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、下落幅は同-3.7%と前月から 5.5%ポイント縮小した。

都市部の社会消費品小売総額は前年同月比-2.8%となり、下落幅は前月から 4.7%ポイント縮小した(3 カ月連続)。農村部の社会消費品小売総額は同-3.2%で下落幅は前月から 4.5%ポイント縮小した(3 カ月連続)。

5 月の電子商取引の社会消費品小売総額は 9,478.0 億円で、前年同月比は+15.6%で、伸びは前月から 9.7%ポイント上昇した(3 カ月連続)。

社会消費品小売総額(2014年1月~20年5月)



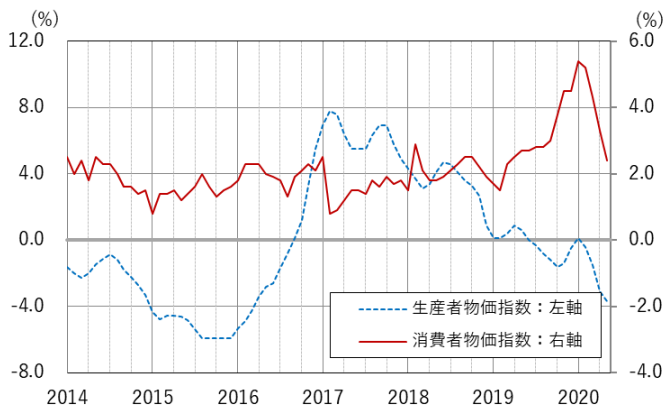
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (6) 物価水準

5月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.4%で、前月から-0.9%ポイント下落した(4カ月連続)。うち、食品価格は同+10.6%上昇し、CPIへの寄与度は+2.15%ポイントであった。食料品のうち、肉類価格の大幅上昇が続いている。豚肉価格は同+81.7%、牛肉、羊肉、鶏肉と鴨肉の価格は同+4.4%~+19.4%と、それぞれ上昇した。一方、果物、鶏卵と野菜価格は同-19.3%、同-14.5%、同-8.5%と、それぞれ下落した。

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-3.7%と4カ月連続で下落し、下落幅は前月(同-3.1%)から拡大した。うち、生産財(生産資料)価格は同-5.1%下落し、下落幅は0.6%ポイント拡大した。一方、消費財(生活資料)価格は同+0.5%上昇し、伸びは前月から-0.4%ポイント縮小した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~20年5月)

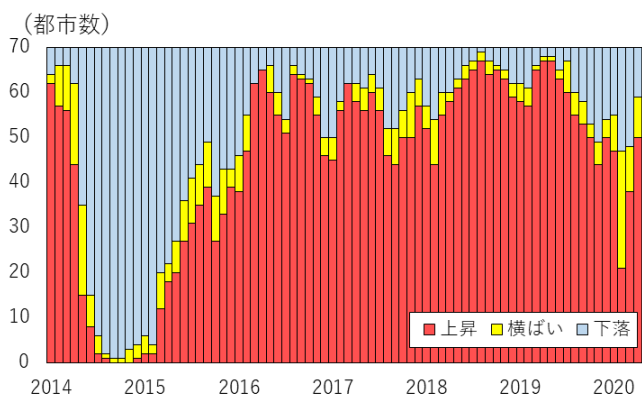


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (7) 不動産市場

5月の不動産市場は、引き続き回復している。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は57で前月から7都市増加した(3カ月連続)。一方、下落した都市数は11で前月と横ばい。また、横ばいの都市数は2で前月から7都市減少した(3カ月連続)。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~20年5月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (8) 今月の中国経済レビュー

5月の経済指標の多くは回復を示したものの、投資と消費は未だに前年の水準を下回っている。現在中国GDPの半分以上をサービス業が占める経済構造となっており、家計消費をはじめとする内需の動向が景気動向を大きく左右するようになっている。

本来3月に開催される予定だった全国人民代表大会(全人代)は5月22日に延期開催された。通常2週間にわたって開催されるが、今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、28日までの1週間に短縮された。例年全体会議開幕の際に前年度の経済動向を総括し、次年度の成長率目標や予算などを含む「政府工作報告」を公表する。今年度は、「足元の世界的な感染拡大と貿易動向を巡る不確実性が高まっている」ため、1988年以来初めて成長率目標の公表が見送られた。なお、下表は昨年の工作目標値との比較を行ったものである。

「政府工作報告」経済目標

|          | 2019年    | 2020年  |
|----------|----------|--------|
| GDP      | 6.0-6.5% | -      |
| CPI      | 3.00%    | 3.50%  |
| 財政赤字率    | 2.80%    | 3.60%  |
| 財政赤字規模   | 2.76兆元   | 3.76兆元 |
| 特別国債     | -        | 1兆元    |
| 新規地方专项債券 | 2.15兆元   | 3.75兆元 |
| 失業率      | 5.50%    | 6.00%  |
| 新規雇用     | 1,100万人  | 900万人  |

同会議では 2020 年中国の政策方向性について、経済安定を重視する「六穩(就業、金融、貿易、外資、投資、マインドの安定)」と「六保(就業、民生、市場主体、食糧・エネルギーの安全、産業・サプライチェーンの安定の確保)」と定めたものの、依然として国内外経済状況を巡る不透明さの高まりによって今後中国経済を取り巻く状況が厳しい。

また、新型コロナウイルス第 2 波への警戒が高まる中、6 月上旬、北京の「新発地」食品卸売市場で集団感染が発生した。

「新発地」は北京最大規模の卸売市場として、市内の多くの飲食店と小売店の仕入れ先となっている。そのため、今回の集団感染は数十万人の接触者がいると予想され、かなり深刻な状況にある。北京市は、PCR 検査能力を 30 万人/日に引き上げるとともに、「新発地関係者」「濃厚接触者」「ハイリスク地域の住民」の市外への移動を禁止した。また上記以外の市民に対して、不要不急な市外への移動を制限する(移動には 7 日以内の PCR 検査結果が必要)という実質的な「都市封鎖」を行っている。第 2 波につながる可能性もあり、今後の景気回復への影響を注視すべきである。

---

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)

---

【主要月次統計】

| 月次統計                       | 19/6M   | 19/7M   | 19/8M   | 19/9M   | 19/10M  | 19/11M  | 19/12M  | 20/1M   | 20/2M   | 20/3M   | 20/4M   | 20/5M   |
|----------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 景況感                        |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値) | 45.0    | 43.8    | 45.3    | 50.4    | 39.9    | 40.2    | 40.2    | 40.9    | 25.1    | 12.7    | 5.8     | 17.1    |
| [関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)  | 49.8    | 46.3    | 42.3    | 37.2    | 45.1    | 46.2    | 45.1    | 39.9    | 25.1    | 18.6    | 18.6    | 38.2    |
| [全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値) | 44.0    | 41.2    | 42.8    | 46.7    | 36.7    | 39.4    | 39.7    | 41.9    | 27.4    | 14.2    | 7.9     | 15.5    |
| [全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)  | 45.8    | 44.3    | 39.7    | 36.9    | 43.7    | 45.7    | 45.5    | 41.8    | 24.6    | 18.8    | 16.6    | 36.5    |
| 消費者心理・小売                   |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]消費者態度指数(原数値)           | 39.0    | 38.2    | 36.9    | 35.7    | 36.1    | 38.1    | 38.4    | 38.9    | 37.7    | 30.3    | 19.6    | 19.6    |
| [関西]〃暮らし向き(原数値)            | 36.9    | 36.4    | 35.5    | 33.8    | 34.3    | 37.9    | 38.1    | 37.3    | 37.1    | 29.1    | 19.9    | 19.9    |
| [関西]〃収入の増え方(原数値)           | 39.7    | 39.6    | 39.6    | 38.9    | 38.0    | 39.4    | 39.1    | 39.8    | 38.7    | 34.4    | 23.6    | 23.6    |
| [関西]〃雇用環境(原数値)             | 43.4    | 42.0    | 41.1    | 41.8    | 40.6    | 40.6    | 40.6    | 41.5    | 38.4    | 27.5    | 12.9    | 12.9    |
| [関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)      | 35.8    | 34.7    | 31.3    | 28.1    | 31.6    | 34.6    | 35.7    | 36.8    | 36.5    | 30.0    | 22.1    | 22.1    |
| [関西]消費者態度指数(季節調整値)         | 38.7    | 38.1    | 36.9    | 35.9    | 36.2    | 38.1    | 38.3    | 38.6    | 38.1    | 30.4    | 19.6    | 23.1    |
| [関西]〃暮らし向き(季節調整値)          | 36.6    | 36.4    | 35.5    | 34.1    | 34.2    | 37.6    | 38.0    | 36.6    | 37.9    | 29.5    | 20.0    | 24.0    |
| [関西]〃収入の増え方(季節調整値)         | 39.4    | 39.5    | 39.2    | 38.7    | 38.4    | 39.4    | 39.5    | 39.5    | 39.2    | 34.7    | 23.6    | 26.8    |
| [関西]〃雇用環境(季節調整値)           | 43.0    | 42.2    | 41.1    | 41.7    | 40.9    | 40.6    | 40.3    | 41.6    | 38.7    | 27.3    | 12.8    | 15.9    |
| [関西]〃耐久消費財の買い時判断(季節調整値)    | 35.7    | 34.6    | 31.6    | 28.1    | 31.6    | 34.9    | 35.2    | 36.3    | 36.7    | 29.8    | 22.3    | 25.5    |
| [全国]消費者態度指数(季節調整値)         | 38.7    | 37.8    | 37.1    | 35.6    | 36.2    | 38.7    | 39.1    | 39.1    | 38.3    | 30.9    | 21.6    | 24.0    |
| [関西]大型小売店販売額(10億円)         | 308.1   | 319.6   | 307.2   | 327.2   | 282.8   | 310.9   | 392.1   | 315.2   | 270.3   | 280.9   | 222.9   | UN      |
| [関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)     | 0.5     | -3.4    | 0.8     | 13.7    | -8.9    | -3.3    | -3.7    | -2.1    | -4.5    | -14.5   | -28.7   | UN      |
| [全国]大型小売店販売額(10億円)         | 1,597.7 | 1,624.2 | 1,589.7 | 1,671.7 | 1,457.7 | 1,610.8 | 2,022.8 | 1,606.4 | 1,438.7 | 1,620.4 | 1,344.5 | UN      |
| [全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)     | -0.3    | -4.5    | 0.9     | 10.4    | -8.1    | -2.0    | -2.9    | -1.6    | 0.3     | -8.8    | -18.6   | UN      |
| 住宅・建設                      |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)       | 11,009  | 12,072  | 10,647  | 11,571  | 11,012  | 10,909  | 12,406  | 10,469  | 11,804  | 11,852  | 9,411.0 | UN      |
| [関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比)      | -0.5    | 9.7     | -11.8   | 8.7     | -4.8    | -0.9    | 13.7    | -15.6   | 12.8    | 0.4     | -20.6   | UN      |
| [全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)       | 76,933  | 75,672  | 75,672  | 75,236  | 74,624  | 70,649  | 70,990  | 67,744  | 72,615  | 75,420  | 66,390  | UN      |
| [全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比)      | 0.7     | -1.6    | 0.0     | -0.6    | -0.8    | -5.3    | 0.5     | -4.6    | 7.2     | 3.9     | -12.0   | UN      |
| [関西]マンション契約率(季節調整値)        | 72.3    | 81.0    | 79.8    | 77.7    | 74.5    | 59.5    | 74.1    | 68.4    | 74.9    | 70.3    | 78.4    | 49.8    |
| [関西]マンション契約率(原数値)          | 73.3    | 83.1    | 84.9    | 75.7    | 73.8    | 60.1    | 71.0    | 66.8    | 75.3    | 69.2    | 77.9    | 50.0    |
| [首都圏]マンション契約率(季節調整値)       | 63.9    | 63.2    | 75.0    | 57.2    | 47.0    | 58.2    | 60.3    | 66.1    | 58.3    | 65.6    | 79.8    | 72.3    |
| [首都圏]マンション契約率(原数値)         | 65.9    | 67.9    | 75.4    | 56.8    | 42.6    | 55.2    | 61.3    | 63.0    | 59.3    | 70.0    | 78.9    | 72.3    |
| [関西]公共工事前払保証額(10億円)        | 147.1   | 135.3   | 106.0   | 120.0   | 189.6   | 133.2   | 95.5    | 92.0    | 74.8    | 157.9   | 319.9   | 120.8   |
| [関西]公共工事前払保証額(前年同月比)       | 9.4     | -4.0    | 11.1    | 9.8     | 62.2    | 40.7    | 8.6     | 28.9    | -6.4    | 44.5    | 45.0    | -14.7   |
| [全国]公共工事前払保証額(10億円)        | 1,447.9 | 1,609.1 | 1,149.3 | 1,275.1 | 1,348.0 | 911.0   | 803.8   | 641.5   | 699.4   | 1,487.0 | 2,305.4 | 1,329.1 |
| [全国]公共工事前払保証額(前年同月比)       | 1.0     | 28.5    | 2.2     | 4.6     | 5.1     | 11.3    | -3.6    | 9.6     | 4.2     | 12.9    | 3.2     | -6.4    |
| [関西]建設工事(総合、10億円)          | 510.8   | 529.3   | 533.8   | 554.2   | 569.7   | 582.6   | 598.3   | 602.3   | 596.9   | 593.6   | 517.2   | UN      |
| [関西]建設工事(総合、前年同月比)         | 3.3     | 8.6     | 5.0     | 4.5     | 5.6     | 3.8     | 2.1     | 2.7     | 2.4     | 3.3     | 3.3     | UN      |
| [全国]建設工事(総合、10億円)          | 4,002.2 | 4,131.4 | 4,346.9 | 4,561.6 | 4,736.5 | 4,798.4 | 4,840.1 | 4,771.0 | 4,627.6 | 4,666.7 | 3,873.3 | UN      |
| [全国]建設工事(総合、前年同月比)         | 3.5     | 2.6     | 3.5     | 2.5     | 3.2     | 3.3     | 2.6     | 1.75    | -0.3    | 0.7     | -0.2    | UN      |
| [全国]建設工事(公共工事、10億円)        | 1,432.3 | 1,495.7 | 1,644.3 | 1,835.0 | 2,005.9 | 2,086.1 | 2,136.0 | 2,135.5 | 2,055.7 | 2,134.0 | 1,492.6 | UN      |
| [全国]建設工事(公共工事、前年同月比)       | 6.0     | 4.9     | 7.8     | 7.6     | 10.8    | 11.4    | 9.5     | 8.2     | 4.4     | 9.1     | 7.0     | UN      |
| 生産                         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)   | 100.0   | 104.7   | 100.3   | 104.4   | 98.2    | 93.8    | 97.5    | 100.4   | 97.5    | 96.6    | 88.3    | UN      |
| [関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)       | -2.4    | 4.7     | -4.2    | 4.1     | -5.9    | -4.5    | 4.4     | 3.0     | -2.9    | -0.9    | -8.6    | UN      |
| [関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比)       | -7.3    | 2.7     | -7.2    | 6.0     | -11.2   | -11.5   | -2.8    | -4.4    | -1.6    | 0.9     | -10.2   | UN      |
| [関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比)       | 5.6     | 6.6     | 8.2     | 3.2     | 4.8     | 3.9     | 3.0     | 5.7     | 2.8     | 3.1     | 0.9     | UN      |
| [関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)   | 97.9    | 104.2   | 100.2   | 107.2   | 98.0    | 93.7    | 97.6    | 98.5    | 98.8    | 99.0    | 89.3    | UN      |
| [関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)       | -4.8    | 6.4     | -3.8    | 7.0     | -8.6    | -4.4    | 4.5     | 0.9     | 0.3     | 0.2     | -9.8    | UN      |
| [関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)   | 105.0   | 105.0   | 105.7   | 102.0   | 103.6   | 102.9   | 103.2   | 104.2   | 102.8   | 104.9   | 102.9   | UN      |
| [関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)       | 4.0     | 0.0     | 0.7     | -3.5    | 1.6     | -0.7    | 0.3     | 1.0     | -1.3    | 2.0     | -1.9    | UN      |
| [全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)   | 101.4   | 102.7   | 101.5   | 103.2   | 98.6    | 97.6    | 98.8    | 99.8    | 99.5    | 95.8    | 86.4    | UN      |
| [全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)       | -3.3    | 1.3     | -1.2    | 1.7     | -4.5    | -1.0    | 1.2     | 1.9     | -0.3    | -3.7    | -9.8    | UN      |
| [全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比)       | -4.9    | 1.9     | -4.5    | 2.2     | -7.3    | -7.7    | -3.4    | 3.6     | -5.4    | -6.5    | -16.6   | UN      |
| [全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比)       | 3.0     | 2.5     | 2.6     | 0.9     | 2.6     | 1.6     | 1.3     | 3.6     | 1.6     | 2.9     | 2.7     | UN      |
| [全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)   | 99.8    | 102.5   | 101.2   | 102.7   | 98.1    | 96.4    | 96.7    | 97.9    | 98.9    | 93.2    | 84.3    | UN      |
| [全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)       | -4.0    | 2.7     | -1.3    | 1.5     | -4.5    | -1.7    | 0.3     | 0.9     | 1.0     | -5.8    | -9.5    | UN      |
| [全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)   | 104.7   | 104.5   | 104.4   | 102.9   | 104.2   | 103.3   | 104.2   | 106.2   | 104.4   | 106.4   | 106.1   | UN      |
| [全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)       | 0.4     | -0.2    | -0.1    | -1.4    | 1.3     | -0.9    | 0.9     | 2.1     | -1.7    | 1.9     | -0.3    | UN      |
| 労働                         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)     | -1.2    | 0.3     | -0.8    | -0.0    | -0.2    | -0.2    | -1.0    | -0.7    | -1.0    | -1.3    | UN      | UN      |
| [関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)     | -1.3    | 0.4     | -0.9    | -0.0    | -0.2    | -0.3    | -1.2    | -0.3    | -1.1    | -1.3    | UN      | UN      |
| [全国]現金給与総額(前年同月比)          | 0.4     | -1.0    | -0.1    | 0.5     | 0.0     | 0.1     | -0.2    | 1.0     | 0.7     | 0.1     | -0.7    | UN      |
| [関西]完全失業率(季節調整値)           | 2.7     | 2.4     | 2.1     | 2.5     | 2.6     | 2.3     | 2.3     | 2.6     | 2.7     | 3.1     | 3.2     | UN      |
| [関西]完全失業率(原数値)             | 2.8     | 2.6     | 2.2     | 2.7     | 2.6     | 2.1     | 2.2     | 2.4     | 2.7     | 3.1     | 3.1     | UN      |
| [全国]完全失業率(季節調整値)           | 2.3     | 2.2     | 2.2     | 2.4     | 2.4     | 2.2     | 2.2     | 2.4     | 2.4     | 2.5     | 2.6     | UN      |
| [関西]新規求人倍率(季節調整値)          | 2.44    | 2.50    | 2.57    | 2.42    | 2.53    | 2.42    | 2.58    | 2.16    | 2.38    | 2.38    | 1.95    | UN      |
| [全国]新規求人倍率(季節調整値)          | 2.36    | 2.34    | 2.45    | 2.28    | 2.44    | 2.32    | 2.43    | 2.04    | 2.22    | 2.26    | 1.85    | UN      |
| [関西]有効求人倍率(季節調整値)          | 1.62    | 1.60    | 1.59    | 1.59    | 1.58    | 1.57    | 1.59    | 1.50    | 1.48    | 1.42    | 1.33    | UN      |
| [全国]有効求人倍率(季節調整値)          | 1.61    | 1.59    | 1.59    | 1.57    | 1.57    | 1.57    | 1.57    | 1.49    | 1.45    | 1.39    | 1.32    | UN      |
| 国際貿易                       |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]純輸出(10億円)              | 269.9   | 68.5    | 120.3   | 200.7   | 190.7   | 110.7   | 193.5   | -126.1  | 417.0   | 245.6   | 54.7    | 28.1    |
| [関西]輸出(10億円)               | 1,350.3 | 1,410.2 | 1,321.5 | 1,415.2 | 1,398.4 | 1,351.8 | 1,414.4 | 1,137.7 | 1,330.0 | 1,421.9 | 1,280.1 | 1,039.2 |
| [関西]輸出(前年同月比)              | -10.9   | -1.7    | -12.9   | 27.5    | -7.8    | -10.2   | -4.1    | -3.6    | 0.8     | -5.2    | -5.5    | -16.9   |
| [関西]輸入(10億円)               | 1,080.4 | 1,341.7 | 1,201.2 | 1,214.4 | 1,207.8 | 1,241.1 | 1,220.9 | 1,263.8 | 913.1   | 1,176.3 | 1,225.3 | 1,011.1 |
| [関西]輸入(前年同月比)              | -13.8   | -0.6    | -10.5   | 30.2    | -14.0   | -16.5   | -5.8    | -7.4    | -17.5   | -4.2    | -2.2    | -19.7   |

注：鉱工業生産 輸送機械工業は船舶・鉄道車両除く。



## Release Calendar for May/June

| Monday                                                                                                                           | Tuesday                       | Wednesday                                                                                          | Thursday                                            | Friday                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25-May                                                                                                                           | 26-May                        | 27-May                                                                                             | 28-May<br>全国貿易統計<br>(3月:確報)<br>全国貿易統計<br>(4月:確・速報)  | 29-May<br>全国鉱工業指数<br>(4月:速報)<br>消費動向調査(5月)<br>商業動態統計<br>(4月:速報)<br>一般職業紹介状況<br>(4月)<br>労働力調査(4月)<br>建築着工統計調査<br>(4月) |
| 1-Jun<br>中国製造業 PMI<br>(5月)                                                                                                       | 2-Jun                         | 3-Jun                                                                                              | 4-Jun                                               | 5-Jun<br>百貨店・スーパー<br>販売状況<br>(4月:速報)                                                                                 |
| 8-Jun<br>景気ウォッチャー<br>調査(5月)<br>中国輸出入<br>(5月:速報)                                                                                  | 9-Jun<br>毎月勤労統計調査<br>(4月:速報)  | 10-Jun<br>近畿地域鉱工業生産<br>動向(4月:速報)<br>近畿圏貿易概況<br>(3月:確報)*<br>近畿圏貿易概況<br>(4月:確・速報)*<br>中国 CPI<br>(5月) | 11-Jun                                              | 12-Jun<br>全国鉱工業指数<br>(4月:確報)                                                                                         |
| 15-Jun<br>商業動態統計<br>(4月:確報)<br>公共工事前払金保証<br>統計(5月)*<br>中国工業生産<br>(5月)<br>中国消費小売総額<br>(5月)<br>中国固定資産投資<br>(5月)<br>中国不動産市場<br>(5月) | 16-Jun                        | 17-Jun<br>全国貿易統計<br>(5月:速報)<br>近畿圏貿易概況<br>(5月:速報)<br>建設総合統計<br>(4月)                                | 18-Jun<br>マンション市場動向<br>(5月)                         | 19-Jun                                                                                                               |
| 22-Jun<br>出入(帰)国者数<br>(5月)*                                                                                                      | 23-Jun<br>毎月勤労統計調査<br>(4月:確報) | 24-Jun                                                                                             | 25-Jun<br>近畿地域鉱工業生産<br>動向(4月:確報)<br>出入国管理統計<br>(4月) | 26-Jun<br>全国貿易統計<br>(4月:確報)<br>全国貿易統計<br>(5月:確・速報)                                                                   |

\*印は発表予定日が未定。 \*\*公表日は翌日。